



財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

JAPIC NEWS

No.283

2007

11

Contents

■ 巻頭言

企業活動の礎「コンプライアンス」

塩野義製薬株式会社 代表取締役社長 塩野 元三 2

■ インフォメーション

医療用医薬品集2008更新情報メールサービス申込開始 4

日本医薬品名事典—医療薬・一般薬—の発行 5

第129回薬事研究会を開催します 5

■ トピックス

JAPICサービスの紹介(8) 外部機関から提供するデータベース 6

新入職員紹介 8

■ コラム

くすりの散歩道No.7

富山県薬業研修センター所長 清水 昭治 9

■ 海外で承認された医薬品—米国、EUを中心に(2) 10

■ シリーズ

東南アジアの医療事情(19) カンボジア〔2〕

カンボジアのHIV/エイズ事情と日本 国立国際医療センター 国際医療協力局 垣本 和宏 12

■ 図書館だよりNo.209 15

■ 情報提供一覧 15

企業活動の礎「コンプライアンス」

塩野義製薬株式会社 代表取締役社長

塩野 元三 (Shiono Motozo)

JAPIC理事



企業の信頼を損なう不祥事が後を絶たない。保険料の不払い、賞味期限や内容物の偽装表示、補助金の虚偽申請等、よくこれだけのことを考えつくと思えるほど、悪い意味での知恵を働かせていることに驚かされる。その結果、企業によっては廃業に追い込まれたり、他企業との連携を余儀なくされたりという例を幾多と見ているにもかかわらず、他山の石として自らを律し、従来の取り組みを見直すきっかけになっていないように見えることは、極めて憂慮すべき事態であると思う。加えて、この国の将来を考えると、国民全体がこの危機的な状況に慣れてしまっているかのように見えること自体が大きな問題である。

それぞれの企業ごとに社是やミッション、ビジョンのようなのがあり、一般的にそれは自らの強みを活かしながら、社会の中でよき企業市民としてともに発展していくことを謳っている。従ってその崇高な目的を達成するためであれば、企業が継続的に発展しながら成長していくことは、自らのエゴのためではなく、顧客、社会、従業員、株主に代表されるステークホルダーのためであると考えることができる。そのことが、企業の継続的成長が存在意義そのものと言っても良い、と考えられる所以である。しかし、企業ミッション達成のためのスパイラル的成長という本来の意味を忘れ、経営者を含め

た企業エゴによる数字の上だけでの成長を追うとき、大きな落とし穴が待っているように思う。

多くの不祥事が内部告発により露見することは、従業員が、顧客や社会の目で企業活動を冷静に見ていることを示唆している。すなわち、企業の継続的發展には、目先の辻褃合わせではなく、長期ビジョンに立った経営理念が必要であることを、肌で感じているということであり、やりがいや誇りを持って働くことができる環境を整えることが経営者の重要な使命であることを意味している。その根幹を成すものが昨今はやり言葉のようになっている、「企業倫理(コンプライアンス)」である。

このコンプライアンスであるが、全ての言葉がそうであるように、言葉として定着してくると、その意味付けが個人による解釈に委ねられたまま放置されるという危険性をはらんでいる。つまり、一口にコンプライアンスといっても、全員が同じことを想起しない可能性があり、言葉だけが独り歩きしている場合があるように思う。この点が経営者に課された、経営者しかできない部分であり、当該企業においてコンプライアンスとは何を意味し、日常の活動において何に留意すべきなのかを、継続的に自らの言葉で語ることが極めて重要であると考えている。



わが社では、「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」という企業理念に基づき、「患者・家族の方々のQOL (Quality of life) 向上を実現するために、患者・家族・医療従事者の方々により一層満足度の高い医薬品をお届けする」ことを企業活動のミッションとしている。

私は以前から、「がん」の痛みで苦しむ患者さんが何とか痛みから解放され、おだやかな生活が送れるようになることを強く願ってきた。最近の医療技術や医薬品の進歩に伴い、がん治療は大きく進展してきた。しかし、治療の過程で、がんによる痛みの本気で取り組む体制が海外に比べて遅れており、本来なら苦しまなくてもよい痛みで苦しんでいる患者さんが数多くおられるという現状である。

わが社では、この私の思いを具現化するために疼痛治療を重点領域の一つに掲げている。疼痛領域の研究開発に過去からの実績があったわけではないが、私の思いを実現しようと研究開発部門では共同研究等をいくつも立ち上げ、早急に専門性を高めようと真摯に取り組んでくれている。

また、がん疼痛治療の普及に向けて広く啓発活動を展開していくことが必要と考え、今年から専門部署を設置した。がんの痛みを緩和するためには医療用麻薬が用いられるが、正確な使い方をしてもらえば効果的に痛みを取り除くことができるのに、日本では医療を行う側も医療を受ける患者さんも抵抗感が強い。さらには、日本では「痛い痛い」と訴えるのは格好悪い、情けない」と考えられる面があり、患者さんの方で痛みを我慢してしまうという、やっかいな風土がある。痛みを我慢せず適切に緩和していけば、むしろがんの治療そのものに前向きに取り組もうという意欲が湧いてくるはずである。何とかこうした抵抗感を払拭し、がん疼痛治療の普及に努め、「がん疼痛からの解放・QOLの更なる改善」の実現に貢献していきたいと考えている。

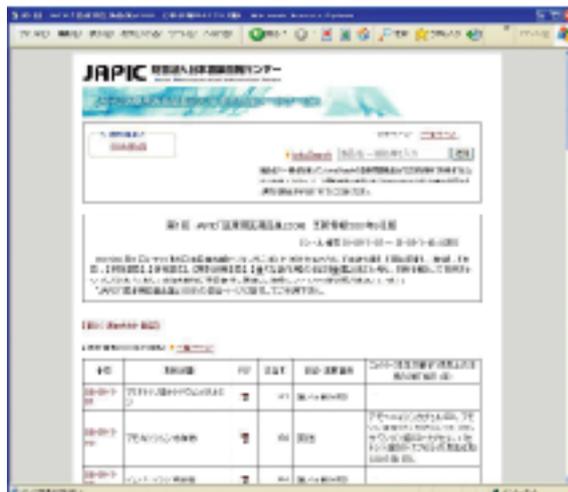
そして、このような活動に企業として真正面から取り組んでいくことで、従業員にはやりがいやプライドを持ってもらいたいと考えているし、プライドが持てる仕事をしていくことこそがコンプライアンスを高める上で最も重要なのではないかと思う。わが社の従業員がもっと「やりがい」、「誇り」、「自信」を持って取り組んでもらえるような経営を行うことが、私自身の最も重要な仕事であると、日々考えているところである。

Information インフォメーション

医療用医薬品集2008 更新情報メールサービス登録のお願い

JAPIC「医療用医薬品集」2008の発刊にともない、2007年10月10日、医療用医薬品集2008更新情報メールサービスを開始しました。

本サービスは、JAPIC「医療用医薬品集」のご購読者の皆様を対象とした無料のサービスで、医薬品集発刊後に入手した添付文書情報から、重要な改訂項目を更新情報として医薬品集の様式で提供するサービスです。ご登録いただいた購読者の方に、毎月の更新情報リストと更新情報を公開するサービスサイトのURLを電子メールでお知らせしますので、この機会にぜひご登録ください。



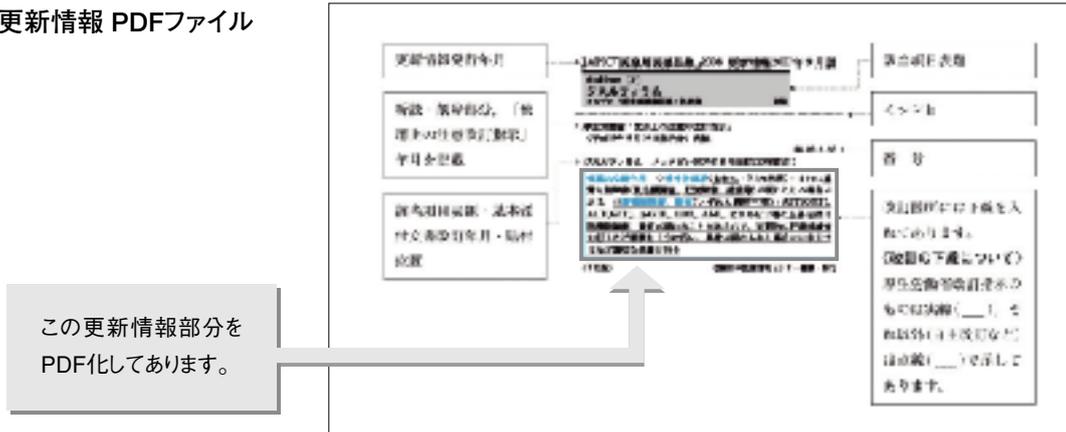
「JAPIC医療用医薬品集2008 更新情報メールサービス」

医療用医薬品集 更新情報とは

JAPICが入手した添付文書のうち、【効能効果】、【用法用量】、【警告】、【禁忌】、【原則禁忌】、【併用禁忌】、【原則併用禁忌】、【重大な副作用】の改訂を、更新情報として提供します。また、これらの改訂情報の他、新規成分医薬品等の薬価収載や後発品なども含めた効能追加といった承認事項に関連した情報につきましても、ご提供します。

本サービスのご案内は、JAPIC「医療用医薬品集」巻末の『綴じ込みはがき』にも掲載されておりますので、ご参照ください。

更新情報 PDFファイル



「日本医薬品名事典」— 医療薬・一般薬 — の発行

2007年11月中旬「日本医薬品名事典」— 医療薬・一般薬 — を発行します。

本書は、我が国の医療の現場で使用されている医療用医薬品及び薬局・薬店等で一般に販売されている一般用医薬品のほぼすべて(約29,100商品)を網羅した医薬品名の索引的事典です。

医薬品の製品名と製造販売会社名、一般名、薬価・収載日、薬効分類が一見して分かるのが特徴となっています。当センターが保有する膨大な添付文書情報データからこれらの事項のみを抽出・列挙して極めて簡便に利用できるようにしました。

JAPICは、医療用・一般用医薬品の添付文書を収集、加工、蓄積、提供することを主な事業の一つとして遂行している公益法人ですが、これらの情報を利用される方々より医薬品名を網羅した事典がほしいとの要望もあり、本書を出版することとしました。

A～F会員の皆様には本書を1部無償で贈呈いたします。(発刊され次第お送りします。)更に追加、あるいは別途購入ご希望の場合は、薬事日報社又は全国の書店でご購入、お申込みください。

価格・お申込み先

- 定価： 3,990円(税込み、本体3,800円)
- A5判・全2色・約1,100頁
- 販売：薬事日報社 TEL 03-3862-2141 FAX 03-3866-8408(注文専用)

「第129回薬事研究会」を開催します

我が国の安全対策における行政の最近の動き、およびバイオ医薬品の安全性、開発などバイオ医薬品をめぐる最近の動向について講演していただきます。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 時	平成19年12月4日(火) 13:30～16:00
会 場	サイエンスホール(千代田区北の丸公園2番1号)
参 加 費	JAPIC会員1名 3,000円 非会員5,000円 (当日会場でいただきます)
申 込 方 法	JAPICホームページからお申込ください
問 合 せ 先	事務局 業務・渉外担当(TEL 0120-181-276)
プログラム	13:30～13:35 主催者挨拶 13:35～14:35 「安全対策における行政の最近の動き」 厚生労働省医薬食品局安全対策課長 松田 勉 氏 14:35～14:50 休憩 14:50～16:00 「バイオ医薬品をめぐる最近の動向」 医薬品医療機器総合機構 早川 堯夫 氏

T トピックス TOPICS

JAPICサービスの紹介(8) 外部機関から提供するデータベース

JAPICが作成するデータベースはiyakuSearchで提供しているものの他、次のサイトからも提供しています。

- (I) e-InfoStream(日本電子計算株式会社)
- (II) JDreamII(独立行政法人科学技術振興機構)

(I) e-InfoStream <https://e-infostream.com/>

e-InfoStreamは日本電子計算株式会社が提供する、医学・医薬品情報の会員制データベースサービスです。

JAPICでは次の7つのデータベースを作成し提供しています。利用ご希望の場合は直接上記サイトにお申してください。

1. JAPICDOC
2. JAPICDOC速報版
3. SOCIE
4. ADVISE
5. MMPLAN
6. NewPINS
7. SHOUNIN

1. JAPICDOC

国内・海外の医学・薬学関連文献から医薬品に関する情報を蓄積したデータベースです。

国内文献は1979年から医薬品の基礎から臨床までの情報で、特に医薬品の有効性や安全性を中心に収録しています。

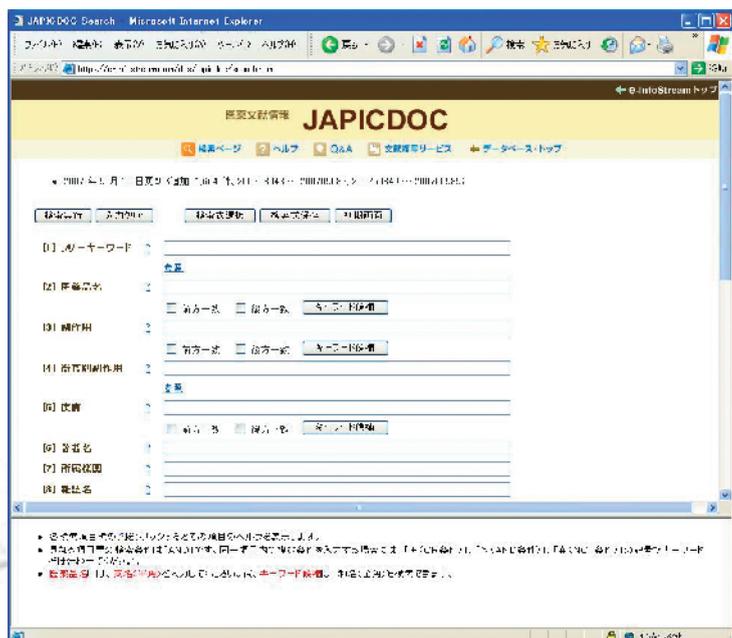
海外文献は1996年から安全性に関する情報を収録しています。

2. JAPICDOC速報版

JAPICDOC(国内・海外の医学・薬学関連文献から医薬品に関する情報を蓄積したデータベース)の速報版です。

[JAPICDOC] 検索画面

日本電子計算株式会社提供



JAPICDOCに収録されるまでの間、1ヶ月前に項目を限定して提供しています。(海外文献情報は含まれておりません)

3. SOCIE

国内開催の医薬関連学会(地方会を含む)で発表される演題の中から、医薬品の有効性や安全性に関する情報を蓄積したデータベースです。1993年4月からの情報を収録しています。

4. ADVISE

臨床で生じた医薬品による副作用の文献情報を蓄積したデータベースです。医学・歯学・薬学ならびに関連領域の雑誌から、医薬品(治験薬を含む)による副作用の記述のあった文献を採択しています。

1995年からの情報を収録しています。

5. MMPLAN

国内で開催される医療関係の学会・研究会・シンポジウム・国際会議等の開催予定情報をデータベース化したもので、学会等の開催日、会場、連絡先、抄録などの入手状況等の

情報を公開するものです。

2005年4月からの情報を提供しています。

6. NewPINS

国内で使用されている医療用医薬品添付文書情報のデータベースです。

添付文書単位でレコードが作成されており、添付文書に記載されているすべての項目が登録されていますので、添付文書の全文を検索対象にすることが、できます。ただし、グラフ・化学構造式など図形の入力は省略しています。

7. SHOUNIN

「医薬品承認品目データベース」の通称で、医薬品の承認年月日を調査するためのデータベースです。

1989年1月以降に厚生労働省が承認した医療用医薬品・一般用医薬品の承認年月日に関するデータを収録しています。

(II) JDreamII

<http://pr.jst.go.jp/jdream2/index.html>

[JAPICDOC] 検索画面

独立行政法人科学技術振興機構提供



JDreamIIとは、独立行政法人科学技術振興機構(JST)が作成した科学技術や医学・薬学関係の文献情報を手軽に検索できるようにしたデータベースサービスです。

JAPICではJAPICDOCを作成・提供しています。

1. JAPICDOC

国内・海外の医学・薬学関連文献から医薬品に関する情報を蓄積したデータベースです。

国内文献は1983年から医薬品の基礎から臨床までの情報で、特に医薬品の有効性や安全性を中心に収録しています。

海外文献は1996年から安全性に関する情報を収録しています。(収録範囲を除き、e-InfoStreamで提供しているJAPICDOCと同じデータです)

データベースに関するお問合せは、それぞれのデータベース提供機関にお願いいたします。

e-InfoStream

日本電子計算株式会社サービス統括本部 カスタマーサービス本部

e-mail : ask@e-infostream.com

TEL 03-5690-3202

JDreamII

独立行政法人科学技術振興機構

問合せフォーム:<https://pr.jst.go.jp/jdream2/form.html>

TEL 0120-521-022 ヘルプデスク

その他のお問合せ

JAPIC事務局 業務・渉外担当

TEL 0120-181-276 FAX 0120-181-461

新入職員紹介



佐野 緑 (Sano Midori)

(医薬文献情報担当)

10月にアルバイトから常勤嘱託として採用になりました佐野と申します。

アルバイトとしてJAPICで仕事を始めたとき、「〇〇さんは、勤続10年です。」と聞いて驚いていた私ですが、それをはるかに超し、13年、いまでは驚かれる立場となっていました。

以前は電設資材を取り扱う会社で情報処理の仕事をしていたのですが、同じ情報でもJAPICでは、医薬品という生命に関わる重要な仕事、常に緊張感を持ちながら文献情報の業務に取り組んできたつもりです。この経験を生かして、多様化しているニーズに合わせた、分かりやすい確かなデータ作りにさらに努力していきたいと思えます。

趣味は友達に誘われていく美術館巡り程度ですが、絵画そのものよりも、絵画を通して見る画家の人物像に興味があるかも知れません。

先月、NHKの「ためしてガッテン」で「誰でも絵が好きになる鑑賞法」というコーナーがあり、絵画にほとんど興味のない人に対し「どれか一つ買うとしたらどれを選ぶか?」という気持ちで絵を見てもらうと、絵の見方が積極的になり、その時に、脳では最も高度な情報処理を行う前頭連合野が活性化する反応がみられたそうです。

医薬品情報も様々な方々が様々な目的で見ることが出来る現在、お役に立てる情報作りに貢献できるよう努めていきたいと思えます。どうぞよろしくお申し上げます。

「富山のくすり」と販売システム

富山県薬業研修センター所長 清水 昭治 (Shimizu Shoji)

300有余年の歴史と実績を誇る配置薬業に新たな「お墨付き」が与えられた。今年7月31日、富山県薬業連合会が出願していた団体商標「富山のくすり」が登録査定されたという朗報である。

団体商標の中でも「地名+商品名」のものは、全国的に見ても「夕張メロン」や「松阪牛」、「西陣織」といった一部商品に限定され、それらに肩を並べるほどの知名度の高さが、公に認められたものとすれば喜ばしい限り。今後は、配置薬とそれを預け置く配置箱、配置業者らが使用する名刺や伝票類など、幅広い活用が推し進められ、さらなるブランド力向上につながる事が期待されている。

そして国内のみならず、配置薬業の真髄である「先用後利」の販売システムに、世界各国の注目が集まるというニュースも飛び込んできた。今年8月23日から26日、モンゴル・ウランバートルで開催されたWHO国際会議で、地域における伝統医療の役割を議題とする中、モンゴルの遊牧民へ伝統薬を供給するシステムに、「先用後利」の手法が導入され、一定の成果を収めて人々のプライマリ・ケアに寄与している事例が示されたことに対し、参加国は目を瞠った。

同会議には、富山県くすり政策課振興開発班の高田吉弘班長が発表者の一人に加わり、配置薬業の消費者本位の販売形態や懸場帳による顧客管理の徹底、消費者ニーズの把握、また信用・信頼の大切さを強調、会議出席者からの質問を独り占めした。万一に備えて手元に薬を備えることができ、それも使用した分だけを後から支払うという、消費者利便に適った「先用後利」の販売スタイルが、医薬品の安定供給と地域住民の健康保持増進に有効な

手法であるものとして、各国の有識者や行政官が強い関心を覚えたというものだ。

しかし現実には、高齢化の進展と後継者確保難に対する特效薬が見られず、昭和30年代には1万人以上を数えた富山県内在住配置従事者も今や1,500人余に減少し、営業地に在住する配置業者や雇用法人配置販売会社の台頭が、全国28,000人という配置従事者数を下支えしているのが業界の姿だ。一方、配置薬の全国生産額も、10年程前に680億円余だったのをピークに、平成17年には380億円余まで落ち込んでおり、低迷を色濃くするデータが並ぶ。

そして、46年ぶりに販売制度を抜本的に変える改正薬事法の大波が配置薬業界に迫っている。医薬品のリスクに応じて使用者に対する情報提供や相談対応のあり方が定められ、それを担う「専門家」として、資質の確保が必要という改正法だが、試験に合格して新制度へ移行し、店舗と格差のない医薬品の供給を通じて消費者ニーズに応えるという「目標」に対し、高齢業者の試験に対する不安感や雇用販社の人員確保への影響など「障壁」が積みまとう。新制度の全容が現時点で明らかになっていないことも、不安を増幅させるタネとなっているが、平成21年春頃の全面施行に至るまでは、業界としての舵取りを誤らず、適切かつ迅速な対応が重要であることは言うまでもない。

厳しい局面は、続く。が、国が改めて「富山のくすり」のブランドを認証し、世界が「先用後利」の有用性に着目したことは、業に対する評価として、奮起の材料としたい。

海外で承認された医薬品(2)

JAPICでは、医薬品の有効性・安全性・規制・承認に関する海外の情報を収集し、行政当局、製薬企業、医療機関等に提供を行っております。本シリーズでは、海外で承認された医薬品のうち、米国、EUにおける新有効成分(New Molecular Entity:NME) 医薬品を中心に随時紹介します。

◆米国およびEU:新規抗レトロウイルス剤maraviroc承認

承認日:米国 2007年8月6日

承認日:EU 2007年9月18日

米FDAは、Pfizer Inc.の成人HIV患者向け経口抗レトロウイルス剤Selzentry (maraviroc)の販売を承認した。maravirocは新有効成分医薬品で、HIVの進行を遅らせる新しいクラスの初の薬剤であり、FDAから優先審査を受けていた。Selzentryは、ウイルス複製が証明されており、複数の抗レトロウイルス剤に耐性のHIV-1株を有する、CCR5-tropic HIV-1が検出された成人感染者の治療に他の抗レトロウイルス剤と併用で適用されるCCR5 co-receptor拮抗剤である。

maravirocは、白血球内でHIVと戦うのではなく、ウイルスがT細胞に入り込む際の主な侵入経路であるCCR5 co-receptorを遮断することでウイルスが未感染の細胞へ侵入することを阻害する。CCR5は免疫細胞の表面タンパク質である。すでにHIV治療を受けている患者は約50~60%がCCR5-tropic HIV-1を有する。

maravirocの承認は2つの二重盲検プラセボ対照試験の安全性と有効性のデータに基づいている。他のHIV治療を受けていたにも関わらず血中にHIV-1が検出された1076例の患者が臨床試験に参加し、maraviroc 300mg 1日1回または1日2回投与された。進行中の2つの試験(MOTIVATE臨床試験)データによると、24週間の治療後、maraviroc 投与群ではHIV-1 RNAが400コピー/ml未満に減少した患者の割合は61%で、これに対してプラセボ群では28%であった。CCR5-tropic HIV-1の血液検査は、

maravirocによる治療が適切であるかどうかを確認するため臨床試験中も行われた。他のHIV治療薬を一度も受けたことのない成人及び小児患者におけるmaravirocの安全性、有効性は確立されていない。また、本剤は妊婦に対しては試験も研究もされていない。

maravirocの製品ラベルには肝毒性に関する枠囲み警告があり、警告/使用上の注意には心臓発作の可能性に関して記載されている。

maravirocの有害事象として最もよく報告されたのは、咳、発熱、上気道感染症、発疹、筋骨格症状、腹痛、めまいであった。

EUでは、2007年7月19日にCHMP(医薬品評価委員会)による承認勧告(positive opinion)を受けており、9月18日にEU・EMEA(欧州医薬品審査庁)により承認された。EUではCelsentriの商品名で販売される予定である。Selzentryは150mg、300mgの錠剤。

◆EU:本態性高血圧症治療薬Rasilez (aliskiren) 承認

承認日:2007年8月22日

EU・EMEA(欧州医薬品審査庁)は、Novartis Europharm Ltd.の本態性高血圧症治療薬Rasilez (aliskiren)の販売を承認した。CHMP(医薬品評価委員会)による承認勧告(positive opinion)は2007年6月21日。活性成分aliskirenはレニン阻害剤である。推奨用量は150mg1日1回で、単剤で、または他の降圧剤と併用で投与される。血圧が適切に管理されない場合は300mg1日1回まで増量できる。



Rasilezの効果は14の主要な研究で検討され、本態性高血圧患者10,000例以上が試験に参加した。そのうち13の研究には軽度から中等度の高血圧患者が含まれ、1つの研究には重度の高血圧患者が含まれた。5つの研究ではRasilez単剤投与の効果がプラセボと比較された。Rasilezはまた、単剤でまたは他の薬剤と併用で他の降圧剤と比較がなされた。併用研究ではRasilezをACE阻害剤(ramipril)、アンジオテンシン受容体阻害剤(valsartan)、 β 遮断剤(atenolol)、カルシウムチャネル阻害剤(amlodipine)、利尿剤(hydrochlorothiazide)と併用した。研究は6~52週間にわたって行われた。Rasilezは単剤でプラセボよりも効果があり、血圧低下において他の降圧療法と同程度に有効であった。Rasilez単剤をプラセボと比較した5つの研究結果から、65歳未満の患者ではRasilez 150mgを8週間服用後、拡張期血圧は研究開始時の平均99.4mmHgから平均9.0mmHgの低下が見られた。これに対してプラセボを服用した患者では99.3mmHgから5.8mmHgの低下であった。65歳以上の患者およびRasilezの高用量を服用した患者ではさらに大きな血圧低下が見られた。Rasilezはまた、糖尿病患者、肥満患者および65歳以上の患者で血圧を低下させた。2つの研究では薬剤の効果は最大52週間まで維持された。Rasilezは、他の薬剤(特にhydrochlorothiazide)と併用した場合、Rasilezを併用しない場合と比べてさらに血圧を低下させ得ることも示された。

Rasilezにより最もよくみられた有害事象は下痢で、その他に咳、末梢浮腫、疲労感、発疹、インフルエンザがみられた。Rasilezは、aliskirenまたは本剤の他の成分に対する過敏症の可能性のある人は使用すべきでない。また、妊娠第2トリメスターまたは第3トリメスター(妊娠4ヵ月前後)には使用してはならない。妊娠第1トリメスターおよび妊娠を計画して

いる女性に対する使用は推奨できない。

CHMPは本態性高血圧症治療におけるRasilezのベネフィットがリスクを大きく上回ると判断し、承認を勧告した。Rasilezは150mg、300mgの錠剤。(米国:2007年3月5日承認。国内:Phase III)

出典:FDA News、EU・EMEA European Public Assessment Report (EPAR) など

(医薬文献情報担当・海外)

Series シリーズ

～東南アジアの医療事情(19)～



カンボジア [2]

カンボジアのHIV/エイズ事情と日本

国立国際医療センター 国際医療協力局

(元・カンボジアJICA母子保健プロジェクト主席顧問 現・インドネシア保健省JICA保健政策顧問)

垣本 和宏 (Kakimoto Kazuhiro)



ある診療所で…

カンボジアの首都プノンペンから北西の方向に車で約8時間行ったところにある、タイとの国境の街の診療所を訪ねました。途中の道路はところどころ舗装されておらず、まだ道の周辺には内戦時に埋められた地雷が除去されていないところもあります。診療所の奥に一階建ての平屋の病棟が数棟並んでおり、そのうちの一つがエイズ病棟です。エイズ病棟にはクーラーもなく、約20名の患者さんがマットもないベッドの上に静かに横たわっています。患者さんのほとんどは20代から30代の女性で腕も足もやせ細っています。ある女性の患者さんの横には彼女の子供が付き添っています。私が入ると子供は私を怖れて弱って動けない母親をそれでも頼りにして寄り添います。しかし、その母親たちは私には何の関心も示しません。子供たちは弱っていく母親の姿をどのように感じているのでしょうか。ここに入院しているほとんどの女性のエイズ患者さんは夫をエイズですでに亡くしているため、子供たちはやがて遺児となるのでしょうかがだれが母親の死後に面倒を見てくれるのだろうか心配になります。



エイズで入院中の母親に寄り添う子供

カンボジアのHIVとカラオケ

カンボジアのHIVはタイとの国境の街から入ったと言われていますが、そこには予想もしなかった日本の文化の流行がカンボジアの深刻なHIV問題に貢献してしまいました。それは「カラオケ」です。「カラオケ」は誰もが知っているように歌を歌う娯楽でこれは日本から世界中に「KARAOKE」として広がり、今では、「カラオケ」が日本語であることを知らない人も世界には多くいます。しかし、「カラオケ」は多くの国に性風俗文化として輸入されてしまいました。「カラオケ」では若い女性がいっしょに個室で歌を歌ってくれて、その後の性的なサービスは交渉次第です。「カラオケ」で働く女性のHIV感染率は20%以上になったこともあり、カンボジアではHIVの多くは「カラオケ」を通じて広がったと言われていました。

アジアで一番のHIV陽性率に…

タイとカンボジアとの国境にも多くの「カラオケ」ができ、「カラオケ」はsex workerのたまり場として全国に広がるのと同時にHIVが「顧客」である男性に広まりました。前稿でも紹介したように、カンボジアではあらゆる社会システムが長期の内戦で崩壊し、国民の保健衛生やHIVに関する知識が低かったころからHIVの広がりは周辺の国々より早く、成人の約4%近くまでHIV陽性率が上昇した時期もありました。アジアのHIV問題と言



「カラオケ」とマッサージがいっしょになっている

えばフィリピンやタイ、インドのイメージかも知れませんが、実はカンボジアのHIV陽性率はアジアで一番高いのです。日本が発信した文化がカンボジアのHIV問題に影響を与えたことに何となく日本人としては複雑な気持ちを感じざるを得ません。

カンボジアでは「カラオケ」を介して男性に広がったHIVは、やがて家庭に持ち込まれ妻などにも感染が広がり、妊娠時には母子感染も大きな問題になっています。国境の街の診療所にいた母と子どもその犠牲者なのかも知れません。

100%コンドームキャンペーン

カンボジアより先にHIVの感染が広がった隣国タイの経験も参考に、カンボジア政府は様々なHIV対策を実施しました。その中で、有名なのが「100%コンドームキャンペーン」です。カンボジアのHIVはsex workerと顧客とを介して広まってきたことから、sex workerの100%がコンドームを着けることを目指したキャンペーンです。sex workerは違法であることからと警察当局などによって取締りを強化することは、sex workerを単に地下に追いやるだけですますます対策が立てられなくなります。また、多くのsex workerは貧困などでやむを得なく仕事に赴いており、まさしく生活がかかっている状況なので、取り締まる前に彼女らの生活を保障する必要があります。かつて、カンボジアの首相はHIV対策と

してカンボジア国中の「カラオケ」を閉鎖するように命令を出したことがありました。確かにその後「カラオケ」の看板は消えましたが、看板は「マッサージ」に変わっただけでその時は何の解決にもなりませんでした。そのため、HIV感染予防を優先させるためにまずはsex workerへのHIV教育やコンドーム装着交渉方法を含んだ「100%コンドームキャンペーン」を実施しました。

その成果もあり、カンボジアのHIV新規感染者は徐々に減少し、カンボジアの「100%コンドームキャンペーン」は世界的にも成功例として高く評価されています。

「プロドナー」

カンボジアは内戦が長く続いたことで多くの病院に輸血センターが併設されていますが、輸血についてもHIVについての多くの問題を持っていました。過去の制度では、輸血血液が必要などときには必要分と同じ量の血液を輸血センターに返す必要があり、先に献血をしないと血液をもらうことはできませんでした。特に緊急で輸血が必要なときは、家族は必死に返却用の献血者を探す必要があったため、このように困っている家族に目をつけて売血を商売にする「プロドナー」が輸血センターや病院の前で待っている風景もよく目にしました。この「プロドナー」からお金が必要なので生きるのに必死です。

しかし、この「プロドナー」の中にもHIV陽性者がいることがあり、輸血によるHIV感染も起こっていました。現在は、献血をこのような「プロドナー」に頼るのではなく献血キャンペーンなどで高校生などからの献血を促進し、また、返却制度も撤廃したので、輸血によるHIV感染も激減しました。

偏見と差別との戦い

HIV対策で最も障害になっているのが、HIV陽性者や感染のリスクが高い行動を取るグループへの偏見と差別です。そのために、HIVの検査を受けただけでも



病院の前で待っている「プロドナー」たち

恋人や夫との間で問題になることはカンボジアに限ったことではありません。また、HIV陽性者に対する抗HIV薬（ARV）による治療のために薬の供給体制を整えても、HIV陽性者は薬を取りに行くだけでも隣人や医療従事者からの偏見や差別を怖れて治療にかからない人もいます。カンボジア人の多くは仏教徒で、政府は多くの国民が尊敬する僧侶がHIV対策にも関わることで偏見や差別と戦う戦略を取りました。HIVの感染は特別な人たちの問題でなく、人間なら誰でも感染する可能性を持っており、決してHIV陽性者に対して偏見や差別を持つべきでないと、住民にも指導できるようにしました。また、HIV陽性者自らがHIV対策にも関わるなどの努力により、ARVを受けるHIV陽性者も増えてきました。

偏見と差別との戦いはまだまだ続くでしょうが、カンボジアはHIV対策の優良国として世界に誇れるようになり、いろいろな国からも視察に来るようになったほどです。今年度、日本の厚生労働省もこのカンボジアにASEAN諸国のエイズ担当官を招待しワークショップを開催する予定です。

日本人は？

カンボジア滞在中に、ある日本人のご家庭がカンボジア人のお手伝いさんに対しHIV検査をするように強制しました。ところがそのお手伝いさんはHIVに感染して

いることがわかりこのお手伝いさんは突然解雇されました。このお手伝いさんはHIVに感染していることを知ったため職を失っただけでなく、その日本人家族との信頼関係や友人まで失うことになりました。残念ながら私の滞在中にこのような日本人の対応を何回も聞いて心が痛みました。HIVは決して日常の生活で簡単には感染するものではありませんし、HIV感染の有無が人格を決定しているものでもありません。

HIVが発見されて25年以上が過ぎました。日本は薬害エイズの問題や、1992年の横浜での国際エイズ会議で多くのホテルがHIV陽性者の宿泊を断って国際問題となった経験を持っていますが、HIV/エイズについての正しい知識は日本人にはまだ広まっておらず、日本人のHIVに関する偏見や差別はまだまだ大きいように思います。日本のHIV新規感染者は今でも加速度的に増えており、このような状況にある先進国は世界で日本だけです。これは、日本の多くの国民がHIV/エイズ問題に関心が薄く、正しい知識がまだまだ浸透しておらず、偏見や差別も大きいことが原因に感じます。日本はすでにHIV/エイズ対策では多くの途上国からも遅れを取ってしまったようで、日本がカンボジアから習うべきことも多くあるようです。

(次号続く)

【新着資料案内 平成19年9月12日～平成19年10月10日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順〉

書名	出版社名	出版年月	ページ	定価
British National Formulary No.54 著者名/Dinesh K. Mehta ed.	BMJ Publishing Group	2007年9月	944p	¥8,118
治験医歯薬情報 No.37 2006年版 著者名/医事出版社	医事出版社	2007年9月	491p	¥28,500
治験責任医師のための治験ハンドブック 著者名/エスエムオーネットワーク協同組合自主監査委員会 編	薬事日報社	2207年8月	141p	¥2,100
GCP治験とモニタリングの基礎知識 第2版 著者名/西川 隆他	薬事日報社	2007年9月	595p	¥4,410
平成18年度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等 レギュラトリーサイエンス総合研究推進事業 事業報告書及び研究実績報告書 著者名/寺尾 允男	日本公定書協会	2007年3月	718p	
医療用医薬品品質情報集 (平成19年9月版) 付録 日本薬局方外医薬品規格第三部 著者名/厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2007年9月	217p	
薬を育てる 薬を学ぶ 著者名/澤田康文	東京大学出版会	2007年9月	224p	¥2,100
MIMS Bangladesh Issue 1/2007 Bangladesh Index of Medical Specialities 著者名/Leong Wai Fun, B.Sc.Pharm.:Chief Editor	CMPMedica Asia Pte Ltd	2007年		¥14,382/年
MIMS HONG KONG・HKIMS 110th Ed 2ns Issue 2007 著者名/Ben Yeo	CMPMedica Pacific Limited	2007年	476p	¥19,397/年
MIMS Taiwan 台湾薬品手冊 35ed. 2007 2nd Issue 著者名/Ben Yeo	CMPMedica Pacific Limited	2007年	594p	¥14,382/年
MIMS 中国薬品手冊 第24版 2007年 第1冊 著者名/梁慧芬	CMPMedica Pacific Limited	2007年	462p	¥14,382/年
創薬論 プロセスと薬事制度 著者名/村川 武雄	京都大学学術出版会	2007年7月	364p	¥3,360

情報提供一覧

【平成19年10月1日～10月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	データベース一覧	更新日
〈出版物等〉		〈iyakuSearch〉 http://database.japic.or.jp/	
1. [医薬関連情報] 10月号	10月26日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [Regulations View Web版] No.146	10月26日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [添付文書入手一覧] 2007年10月分 (HP掲載)	10月26日	3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. [JAPIC NEWS] No.283	10月26日	4. 一般用医薬品添付文書情報	随 時
〈速報サービス等〉		5. 規制措置情報	毎 日
1. [医薬関連情報 速報FAXサービス] No.605-608	毎 週	6. 臨床試験情報	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	7. 日本の新薬	随 時
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	8. 学会開催情報	月 2 回
4. [外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.1560-1581	毎 日	〈JIP e-InfoStreamから提供〉 https://e-infostream.com/	
5. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.210-214	毎週月曜日	1. [JAPICDOC速報版 (日本医薬文献抄録速報版)]	月 1 回
6. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	2. [JAPICDOC (日本医薬文献抄録)]	月 1 回
		3. [ADVISE (医薬品副作用文献情報)]	月 1 回
		4. [MMPLAN (学会開催予定)]	月 1 回
		5. [SOCIE (医薬関連学会演題情報)]	月 1 回
		6. [NewPINS (添付文書情報)] (月2回更新)	月 2 回
		7. [SHOUNIN (承認品目情報)]	月 1 回
		〈JST JDream IIから提供〉 http://pr.jst.go.jp/jdream2/	
		[JAPICDOC (日本医薬文献抄録)]	月 1 回

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。
リフレッシュにどうぞ!!



ムラサキシキブと同じクマツヅラ科の中国原産植物で、観賞用として暖地の庭園などに植えられる。ベニバナクサギ、タマクサギ、アマギのクサギなどの別名もあり、原産地中国では和名を逆にしたような「臭牡丹」と呼ばれる。10月頃に美しい花をつける。

(ky)

ぼたんくさぎ(クマツヅラ科)



山野に野生するマツブサ科の植物で、その赤い実は、五味子として局方生薬となる。高原地方の観光地などではジャムにしたり、果実酒として人気が高い。漢方でもよく使われ、リグナンに属するゴミシンやシザンドリン等が有効成分として知られ、肝機能改善や中枢抑制作用が報告されている。

(ky)

ちょうせんごみし(マツブサ科)